
人格交差スクランブル

七つ夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人格交差スクランブル

【Nコード】

N9630U

【作者名】

七つ夜

【あらすじ】

僕の心の中には、スクランブル交差点があるんだ。

そんなことを、誰かが言った。

ここは、僕の心はずなのに。

なんで、君達がいるの？

人格交差系ほのぼのストーリー。

歩／初日・1（前書き）

前書き

どうも、七つ夜です。

初めまして？

まあ前回の「ナイフと少年」で前書きは失敗しちゃってるから長々と書きません！

稚拙な文章ですが、読んで頂けるのなら幸いです。

歩／初日・1

え？君、何でここに居るの？ここに入れるのは数人だけのはずな
んだけどな……。

まあいいや。ここについて軽い説明でもしようか。きっと今、君
は混乱してるはずだからね。

ああ、楽にしてくれて構わないよ。そこらに座ってくれてもいい。
……さて、どうしようかな。ここに来てるってことは、自己は確
立してるんだろうけど……。

うん、情報を与えすぎるとマズいだろうし、かなり抽象的に説明
するよ。

まずは一部で全部な解説をしよう。

はい、そこ。おかしいだろ、なんてツッコミは入れないでね。

ここは、僕っていうのはちょっと違うけれど……まあとりあえず
は僕の心の中なんだ。君の心の中でもあるけれどね。

で。僕の心の中には、スクランブル交差点があるんだ。

スクランブル交差点ってのは分かるかい？

アレだよ、人が縦横斜めのどこからでも渡ることが出来る交差点
のこと。

渋谷にあるのが一番有名かな？

……まあ、実際に見たほうが早いか。

ほら、下を見てごらん。人がいっぱい歩いてるでつかい横断歩道
が見えるだろう？それがスクランブル交差点だよ。多分君も、あの
交差点からここに迷い込んだらだろう。

ちなみに今居るここは、その上空だよ。床は透けているから、下
の様子がよく分かるはずさ。ガラス張りの床なんて、洒落てるでし
よ？なかなかの眺めだと僕は思ってるよ。

あ、落ちはしないよ。余程のことが無い限りね。

……少し脱線しちゃったね。話を戻そう。

そこには、たくさんの人が行きかっついていて、その全てが「僕」。初めは静かだったそこは、今ではもう渋谷のそれと同等に賑わっているんだ。

新しい人の波が生まれては消え、生まれては消え。

俯瞰の景色からそれを眺める僕は……いや、僕たちはさしずめ、この交差点の支配者ってわけ。

しがない通行人Aの彼ら、いや、僕たちが演じる、思い思いの「正義の味方ごっこ」の管理者なんだ。

……意味が分からない？あはは、当然だよ。ま、君にもいつか分かるさ。

ここに来られたってことは、その必要があるってことだろうしね。……おっと。そろそろ時間だし、僕はあそこに帰るよ。いやいや、なかなか楽しい時間だった。

あ、そういえば訊き忘れていたよ。君、名前は何ていうの？
ちなみに僕は、防人

「めしは 創……つて、うえ？」

夢の延長で声が出てしまっていました。けっこうコレって恥ずかしいですよ。ていうかアレですよ、さっきまで『俯瞰』に居たの誰ですか。俺は寝てたはずですよ？自分の名前を言う状況ってどんな状況なんでしょうか、全く。

……まあいいや、細かいことは気にしないーい！いちいち考え込んでちゃ日が暮れちゃいますよー！

ハイ、というわけで皆さんオハヨウゴザイマス！現在時刻は朝七時！みんなの防人 創でーす！

あ、この「みんな」を使って語りかけてるのはというのは俺の癖だから気にしないように！

気にしすぎたら禿げちゃうぜ？

さてさて、気になるプロフィール！ジャジャン！年齢秘密、職業秘密、将来の夢秘密。特技はお喋り！お次に趣味は

「お兄ちゃん、起きてるー？」

ドア越しに聞こえる少し高めのお愛らしい声。おっと、これはこれ。我が麗しの妹君ではありませんか。

ちなみに彼女の名前は、防人 造^{つくひ}。創と造。兄妹でセットの大きな名前を付けられたってワケですよ。ちなみに妹は嫌がってます。当然ですよ。女の子の名前じゃないですもん。

ともかく！

「起きてますとも、オハヨウ造ちゃん！今日も声がキュートだね！」

「へ？……ああ、おはよう。……今日は騒がしい人なんだね」
ドア越しに返事をする、何故か嫌そうな声で返事が返ってきました。……いつものことなんですけどね。

「ソウデスヨー？まあお兄ちゃんには違いなからいつも通りにお兄ちゃん、と呼んで」

「じゃあ先に朝ごはん食べてるね、確か……^{あゆむ}歩さんだったよね、うん」

「聞こうよ人の話を！」

タツタツタツ……つと階段を下りる音がして、妹が部屋の前から去っていつちやいました。

はあ、と溜息を一つ。ハイ、勘のいい皆さん、多分当たり前！おそらくご察しの通り、訳があつて僕は妹とは不仲なんですよ。

あゝあ、どこで間違えたのでしょうか。
……まあ、それはどこかに置いておきましょう。深く考えて傷ついちゃうのって嫌なんです。

さて、では毎朝恒例の掛け声

「そんなこんなで始まりましたマイ・トゥデイ！さて、今日も気合入れていこーっ！」

「うるさーいー！」

「スイマセーン！」

近所迷惑でした。一階から妹の怒声が飛んできます。

妹に怒られながら始まる一日……なかなか趣深いぜ！……うう。

え？泣いてるって？……いやいや、泣いてないよ？いやホントに
なんか目から生暖かな液体が出てるっぽいけど……多分コレ、汗だ
よ、うん。目から出てるなんて気のせいだよ、うん。あ、鼻水も出
てきた……。

チクシヨー、やっぱりこの世には慣れないなあ……。

(……いやいや、歩。キャラ間違えてるよ。動転しすぎじゃない
？)

(へへへ、歩。俺の領分勝手に取った罪は重いぜー？)

(まあまあ落ち着けて、留とどに発はつ。歩は朝はいつも不安定なんだ。
あとで急にバトンタッチされても困るだろ？『俯瞰』から落ちるの
って怖いんだ。氣きい遣しってやれよ)

(……刃兄じん、うるさい)

(なっ……お前ら……もう少し氣い遣えよな……)

歩ノ初日・1 (後書き)

感想等あれば、ご遠慮なく！

読んでくれてありがとうございます！

歩ノ初日・2 (前書き)

少しの間は意味が分からないかもしれないかもしれませんが！読んでくれたら嬉しいです(笑)

歩／初日・2

さてさてっ！朝日が眩しい通学路での平和な日常を実感したいと思いまーす！

「では、現在喋っている造ちゃん、どうぞ！」

「は？何言ってるんですか歩さん？」

「だからさー、俺は創くんなんだって。何度言ったら分かってくれるのかな、造ちゃん？」

「えー、だつてほら、お兄ちゃんは『俺』なんて言わない」

「僕は創だつて」

「歩さんみたいにヘラヘラしてないし」

「キリッ」

「ていうか、前提が間違えてた。完全に別人だよね」

「ベリベリシヨック！」

折角、似せようと思って努力したのに！造ちゃん……なかなかやるな！返しの威力が何故か俺には異常に高く思えるよ……。

さて、俺と造ちゃんは現在兄妹揃って仲良く登校中。……のはず。

「仲良く登校中……だよね？」

「そんなわけないでしょ、本当にお兄ちゃんなら別だけどさ」

「だから俺はお兄ちゃんだつていつてるのに！」

ちくせう。ちくせう。

私めは、妹君にいとむつかしく（不快にうつつうしく）思はれてゐるやふにございます。

「大体ね」

「なんでございませうか」

「喋り方を直しなさい、口利かないわよ」

「ハイ」

「よし」

まるで犬のように妹に従順な兄でありました。……悲しいねえ。

「大体ね、なんで歩さんが平然と登校してるわけ？」

「俺は創クンだっていつてるでしょー？」

そう。俺は創クンなんだ。創クンの身体で、創クンの夢も理想も何もかも同じ。別に嘘は言ってるない。

「……あくまでシラを切るつもりか」

じとーっ、とこちらに目を向けてぼそっと言葉を発する造ちゃん。いやー、可愛いですねー。

まあ、会話を変えるのには丁度良いでしょう。

「あはは、どーでしょ？ほら、もうすぐ学校ですよ？」

ふふん。なんだか勝った気分です。

「……ね」

え、と。何か造ちゃんが言ってます。聞きたくない聞きたくない。

「死ね」

「うぎゃー！」

「死ね死ね死ね死ね死ね！」

「ぎゃあああああああ！」

二秒も経たずに負けちゃいました。言葉がストレートなだけ、心に鋭く突き刺さってきます。

……おっと、もう学校に着いちゃったみたいです。名残惜しいけれども、しばしお別れ。

「えーと、造ちゃん」

「……何？」

「ここは兄としてしっかりと送り出そう、うん。」

「いつてらっしやい」

「……」

少しの沈黙の後、プイっところちらに背を向けて造ちゃんは校舎に向かって走り出しました。

あちゃあ、ダメでしたか。

造ちゃん、俺はただ君と仲良くしたいだけなんだけどなあ。

後は君だけなんだよ、造ちゃん。クラスメイトとも、近所の人と

も簡単に仲良くなつた。なのになんで実の妹なのに、こんなに仲良くなるのが一番難しいのかなあ。

……まあ、これだけは失敗するわけにはいかないんだよね。俺が俺であるためには。俺が自分を見失わないためには。

誰とでも仲良く。それが俺の役割なんだから。

「さて」

今日も一日、頑張りますか。手の届く範囲で。

さてさて、造ちゃんとの別れを経て、3時間目の休憩時間です。場所は……今風の言葉で言うなら、『踊り場なう』ですね、ハイ。まあ話題を変えましょう。学校の階段ってだるいですよねー。なんでこんなに段数あるんでしょうか。

「うっわ」

まだ十段もあるじゃないですか。こりゃあ気が滅入ります。

この校舎は6階建てで、今、俺が行こうとしている教室は6階にある。

……え？ちよつと人聞き悪いですよ、そのの『運動不足』って思ってるアナタ。違うんですよ？これはアレです、ほら。

「おう、創。今日も手伝いか？」

「うん、また手伝いなんですよ」

今、僕に話しかけてきてくださってるのは九重ここのえ久遠くおんくん。結構仲はいい方のクラスメイトです。

と、いうわけで今、九重くんが言ってくれたように、俺は先生の手伝いで教材室に荷物を配達している最中なんです。決して運動不足なんかではありませんよ、ハイ。

「大体さ、お前は働きすぎなんだよ。今時自分から進んで先生の手伝いしようなんて奴いないだろ」

「ははは、こんな時代だからこそですって。ほら、先生の評価も

上がるでしょ？」

「……つたく、馬鹿だよな、お前は」

「ははは、よく言われるからもう慣れましたよ」

「そうかい、俺の考えが世間一般と同じでよかったよ」

んじゃ、と九重君が背を向けて片手を拳げながら去っていきます。

おお、かつくいー。

……ねえ皆さん。俺、なんか馬鹿なことしてます？

学校が終わったので帰宅。

世は事も無し、平和な一日でありました。

……とりあえず、今までは。ここから先はどうなるか分からないですからね。

よし、と意を決して手をドアノブへと伸ばします。
がちやり。

「ただいまー」

ただいまー、と家の中から跳ね返ってくる声。

鍵が開いてたので、家の中には誰か……っていつか造ちゃんが居るはずなんだけどなあ。

……マジですか。無視ですか、現代社会の闇ですか。コレっていじめ？先生！防人家でいじめが発生しました！

……ああそうか、誰も家に居ないのか。なるほどね。

そうそう、ポジティブに考えよ……って造ちゃん！やっぱり居たんだ！結構ニコニコしてこっちに来て……。

「おかえり、お兄ちゃ……じゃなかった、歩さんだよ。よくもまあ平然と帰ってこられましたね」

「デレと見せかけやっぱイジメ！？」

誰か家に居たっていう束の間の俺の安心感を返して！

いや、きつとこれは造ちゃんなりのスキシップなんだ……多分。

そうやって自分を奮い立たせようとはしたんですけど。

「仲良くする気は更々無いです」

「好感度がマイナス方向に振り切ってる!？」

落ち込みました、ハイ。

……報われないんだもん!そりゃあ落ち込むよ!

こほん。さて、気を取り直して。

「改めましてただいま!。造ちゃん、今日は早いんだね」

「悪いですか」

冷たいなあ。液体窒素レベルじゃないの、コレ?

「いやいやいやいや!滅相もございません!アレですよ、話題作りです!」

「話すことなんて一言も無いです。歩さんの所為で今も吐き気を催しています」

ぐああああ!耐える!耐えるんだ歩!ここで退いたら男が廃る!

「……ビニール袋、持って来ましょうか?」

「要りません。出かけてきます」

防人歩、撃沈しました。ええ、完膚なきまでにフルボッコにされました。……最後、気合入れたのに何で弱気な発言しちゃったんだろっ。

造ちゃんが俺の横を通って靴を履いたので、とりあえず家族として。

「……い、いつてらっしやーい」

あ、ヤバイ。顔が引きつつてるかも。

しかし、予想外な出来事が。

既にドアを開けて半身が外に出ていたのにもかかわらず、造ちゃんは少しだけ動きを止めてくれました。……え、もしかして返事をくれるの

ボタン!

全力で玄関のドアを閉めてお出かけになりました。

「はあ」

そりゃあ溜息も出ますよ。仕方ないです、ハイ。

ていうか、ね。もう限界ですよ、俺は。心が痛くて痛くて、もうどうしようもありません。こういうときは、創クンの便利な力を使って逃げちゃいましょう。

俺は靴を脱いでリビングに移動して冷蔵庫の中から麦茶を取り出し、コップに注ぎ、そのままグビグビと飲み干しました。いやあ、喉がカラカラに渴いちゃって。造ちゃん、圧力が凄いから。本当に押し潰されそうでしたよ。ええ、心がね。ははははは。そのアナタ、笑い事じゃないんですよ？（少し壊れ気味です、ハイ）

喉を十分に潤してから、二階に上がってベッドに寝転がって目を閉じます。

寝てるときに代わってくれるのが、精神的に一番楽なんです。急に変わっちゃうと、そりゃあもう大変なんですよ？

それでは。誰にバトンタッチするかは分からないけれど、頑張っ
てね。

皆さん、サヨウナラ！またいつの日にかお会いしましょう！しー
ゆーあげーん。

歩ノ初日・2 (後書き)

「皆さんサヨウナラ」なんて言ってますけど、これで終わりじゃないですよー(笑)

読んでくれてありがとうございます。

修正入れました。何度もすみません。

ある少女の夢／1（前書き）

これは、interludeってやつです。ええ。
調子に乗って、とか言わないでくださいね。
では。

ある少女の夢 / 1

わたしは、お兄ちゃんがすきでした。

ほんとうの、ほんとうの、ほんとうに、すきでした。

そんなのおかしいよ、ってみんながいうけれど。

わたしは、それをおかしいとおもったことはありませんでした。

いつでも、どこでも、わたしをまもってくれお兄ちゃんをすきにならないほうがおかしいとおもっていたからです。

おかあさんにいうと、おかあさんは「うふふ」「ってわらって、あたまをなでてくださいました。

おとうさんにもいうと、おとうさんは「ははは」「ってわらって、あたまをガシガシしてくださいました。

だから、それはいいことなんだ。

きつと。……きつと。

ある少女の夢ノ1（後書き）

意味不明ですけど、コレもちょいちょい書いてきます。
ありがとうございました。

留ノ初日（前書き）

お久しぶりです。

PCいじれなかつたんで投稿が遅れちゃいました……。

まあ、読んでくれたら幸いです。

留／初日

お、君か。

まだここに居たのかい？

ここより下の方が楽しいと思うんだけどな。

…… 本当に何も無いんだよ？ここは。

下にはカフェとかあるんだ。今度コーヒーでも飲みにつて、興味ないか。

…… はあ。どうしたら君は動き出してくれるんだい？

ココに来たからには、働いてもらわないと困るんだよね。

最近、ただでさえスクランブル交差点の『密度』が低く……。

そうか、なるほどね。君は……。

そろそろだろうとは思っていたけど、君だったのか。

じゃあ、初めましてっていうのは少しおかしかったね。

うん、ゴメンよ。僕も名前を偽ったことは謝ろう。

僕の名前は、防人 おわり 終。

久しぶりだね、

。

少しの浮遊感の後、すとん、とシートに座らされたような感覚。

…… なに？今度は俺？

周囲を見渡す。視界が90度歪んでいる。

…… うつ伏せになって寝てただけだけど。

起きて、ベッドの上であぐらをかく。

「……」

おはようございます、皆さんの防人 創ですー……。

これでいいか？

そんなこんなで、俺の一日はだらだらと始まる。

時刻は午前5時。

「……………は？」

幾らなんでも、早すぎだ……………！

「……………寝るか。おやすみ」

そんなこんなで、俺の一日は今日も不規則に始まっていく。

……………やっぱり、ちょっとフライングしたって事で今のはナシな。

おやすみで始まる一日は、なんだか気持ち悪いからな。

(いや、留兄どんだけやる気無いんだよ！)

(そうだぞ留。やるだけやれって)

(す……………)

(歩兄もなんか言おうよ……………って、寝ちゃってる)

(ほんの数時間前に帰ってきたばかりだからな。そりゃ疲れるさ)

(す……………)

ドアを軽くノックする音が聞こえて、目が覚める。

「お兄ちゃん、朝だよ！起きてる？」

創の妹の造だ。……………多分。

返事は……………ああ、面倒くさい。

大体、今時妹に起こしてもらうなんて。……………恥ずかしいだろ。

「……………」

なので、俺はこの沈黙を死守することにした。

造には悪いが、俺は俺らしく過ごさせてもらおう。

「お兄ちゃん？返事ぐらいしてよー」

変わらず沈黙。

「ねー、聞いている？聞こえてる？」

一瞬の静寂。

「……………入るよー？」

驚愕。

おかしいだろ。年頃の兄の部屋だぞ？入ってくるか、普通？

「いや、起きてるから」

その行動を止めようとするが、時既に遅し。

無情にもドアは開き、創の聖域サンクチュアリは侵されてしまった。

いや、特に見られて困るものもないけど。

「今日はなんだか大人しいですね？」

「そんな気分なんだよ」

まあ、別人だってだけなんだけどな。

「……まあ、いいです。で、あなたの名前は何ていうんですか」

「名前？なんでそんなコト訊くんだよ」

俺は創で、それ以外の何者でもない。

……あ、でも。刃とかからは留ルミって呼ばれてるか。

あーあ、簡単に揺らいじやうもんだな、俺の考えって。

むすつとした顔ですつとこつちを見てる造にも悪いしな。

「……留ルミだ」

ていうか、何度か会ってるんだよな。子どもの頃に。

そのときにも名乗ったはずなんだが。

悲しいな、人の記憶つてのも。

「防人 留。ほら、覚えたか？これでいいだろ」

できるだけ、無愛想に。

俺と……いや、俺たちと関わると後々面倒なことになるかもしれない。

……いや、心配なんかしてないが。

「留、さん……？」

お？なんか思い出してくれてるのか？

ちよつと胸の辺りがぼわぼわするな。

俺の期待を過大に受けながら（造には知る由よしも無いが）、造が続ける。

「……まあ、いいです」

がくつ。

結構ナイーブなんだぞ、俺。

俺の純情が弄ばれ……いやいや、コレじゃ歩と同じじゃねえか。

「なんだか、懐かしい感じはします。……気のせいかもしれませんが」

「……お、おう」

なんだなんだ？今日はアップダウンの激しい日だな。

滅茶苦茶嬉しいじゃねえか。

「よろしくお願いしますね、留さん」

こくり、と頷いておく。

「では、朝ごはんは作ってますから。食べておいってくださいね
では、と言って造は階段を降りていった。

「我ながら、可愛い妹だとは思うんだが……」

俺たちが生まれた原因があの子にあるってのを考えると、なあ。

……まあ、気にしても仕方ない。

「さて、朝飯でも食べるとするか」

久々に食う造の料理だ。

どれだけ成長したのか、見せてもらおうとしよう。

……結論。うまかった。感涙にむせぶほど（オーバー）。

とりあえず一人で登校して。

ずつと窓の外を眺めてた。

笑っている皆を見ると、こっちまで明るい気分になってくるから不思議だ。

そういえば。廊下を歩いていると九重久遠とかいう奴に会った。

「よう、創」とか馴れ馴れしく声をかけられたから思わず振り返って「……おう」とか返事をしてしまったんだ。

それから2分ぐらい立ち話をして別れたんだが。
……どうも、飄々とした物言いの所為で人物像の掴めない奴だっ
た。

なかなか頭の切れる奴だということは分かったが、そんな奴がな
んで俺なんかと仲がいいんだ？

……ああ、歩か。

アイツは立場とか関係なく人に突っかかっていくからな。

……アイツは、どうも苦手だ。

傷つくのを全く恐れない。RPGの勇者様かっていうぐらいに。
鈍感なのか、計算づくなのか。

心が欠けてるってのは、どうなんだろうな。

放課後になるまで、どうしたらあんな風になれるのかって考えて
みたり。

あとは俺の本分を思い返してみたり。

……とにかく、授業は聞いていなかった。

家に帰ると、造がいた。……造だけが。

「……ただいま」

「あ、留さん。おかえり」

『ただいま』、と言うと『おかえり』って返ってくる。

当たり前で、幸せな光景。

……でも、俺たちの場合は『当たり前』じゃない。

欠けているものがあるから。

どうやっても埋められないものが、欠けているから。

……歩たちはどう思ってるかは知らないが、俺はこの環境がすっ
げえ嫌いだ。

俺たち兄妹には、両親がない。

昔、造と俺とが起こした事件が原因で、二人とも自殺した。

確か、そのときに俺が弾き出されたんだっただかな。

あの時の記憶は、『俺たちの始まりの記憶』だから、全員が持つてるはず。

……皆、触れもしないけどな。

かくいう俺も、思い出したくもない記憶だから触れないようにしてる。

まあ、悲しいことばっか考えてても面白くない。

面倒くさいけど、楽しく過ごしてもいいかな。

なーんて、な。

「留さん、食べられないものとかありますか？ 晩御飯の用意してきましたんですけど……」

俺たちにも好き嫌いはある。しかも面倒くさいことに、各々好みが違うのだ。

まあ……そこを気遣ってくれてる造は、本当に優しい奴なんだと感心する。

「……別に。創と一緒にいい」

ざっくり説明すると、俺は造の相談役を受け持った人格だから。

『創』にできるだけ近づこうとはしているつもりだ。

……ん？

造が今、こっちを睨んでいたような……。

気のせいか。

特に気にすることも無く、俺は自分の部屋に向かった。

俺の一日は、大体ここで終わり。つまんねえだろ？

まあ、また明日な。俺が出てればの話だけだ。

……晩御飯は、すんげー美味かった。

いやー、びびったびびった。

留ノ初日（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9630u/>

人格交差スクランブル

2011年10月9日11時29分発行